

令和7年度 第3回 長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

道建-13

道路改築事業
主要地方道長崎南環状線
しんとまち えがわまち
(新戸町～江川町工区)

事業主体 長崎県

再評価の理由 再評価後変更(事業費・工期)



1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B / C	概要
		着工	完了			
当初 (H27新規)	-	H28	R7	160.0	2.60	【工事概要】 延長5.15km 幅員6.5(10.0)m
第1回審議 (H30年度)	個別補助への移行	H28	R12	250.0	1.57	【当初評価からの変更概要】 ・関係者協議によるIC形式や迂回路の変更による事業費の増 ・運搬路や施工計画の見直しなどに時間を要したことによる工期延長
第2回審議 (R5年度)	再評価後5年経過	H28	R12	250.0	1.83	前回評価からの変更なし
第3回審議 (R7年度)	再評価後変更 (事業費・工期)	H28	R16	310.0	1.50	【前回評価からの変更概要】 ・トンネルパターン等の変更による事業費増 ・残土処分地の変更による事業費増 ・資材単価等の上昇による事業費増 ・用地買収の難航による工期延長

2. 目的・事業概要・これまでの経緯

◆目的

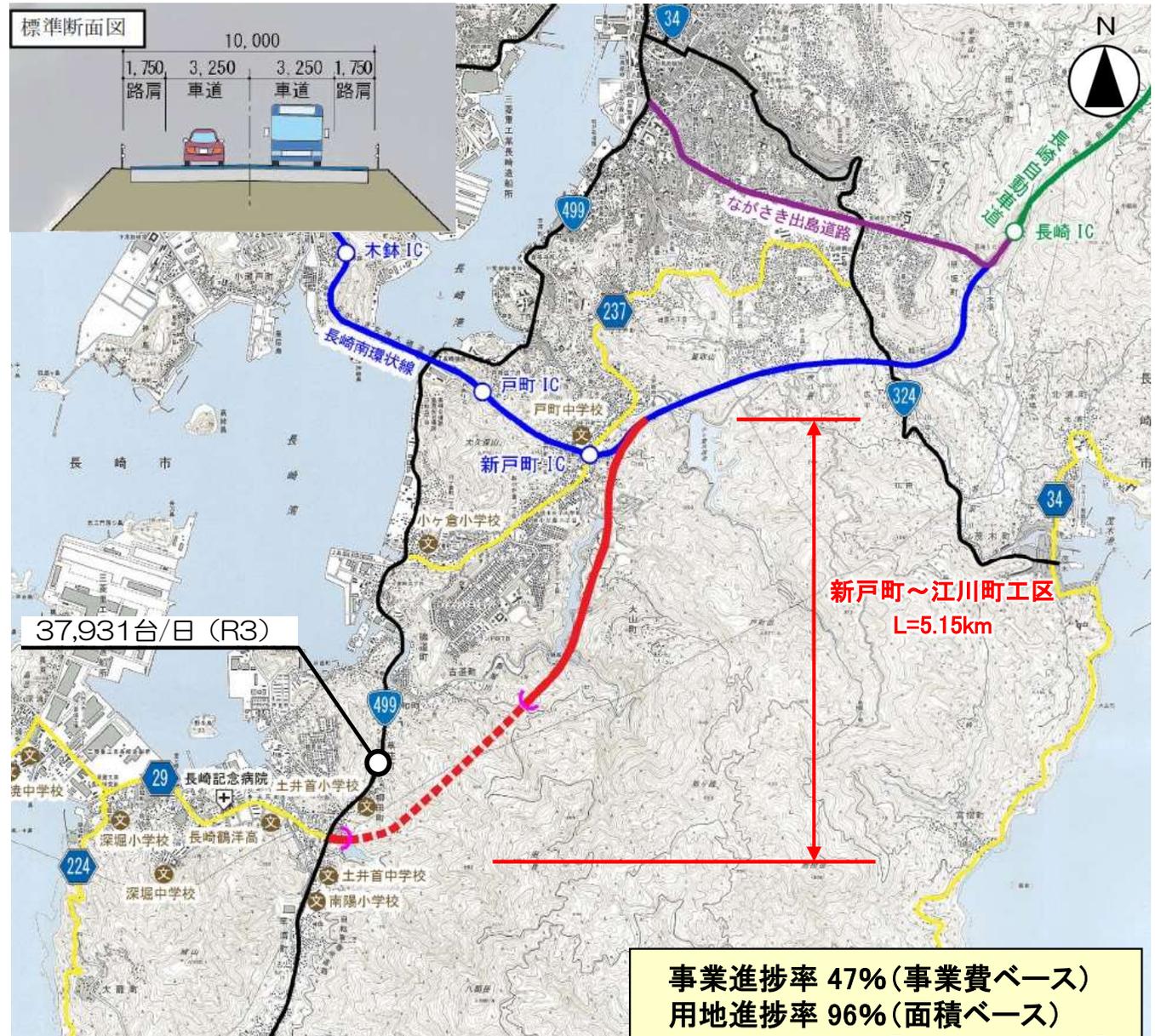
主要地方道長崎南環状線(新戸町～江川町工区)は、長崎市南部地域の慢性的な渋滞を緩和することなどを目的としている。

◆事業概要

全体延長	L=5.15km
幅員	W=6.5(10.0)m
計画交通量(R22)	12,300台/日

▼事業経過

平成28年度	事業化
平成29年度	用地買収着手 工事着手
平成31年度	補助事業化
令和2年度	橋梁工事着手
令和4年度	トンネル工事着手



3. 事業の効果・必要性

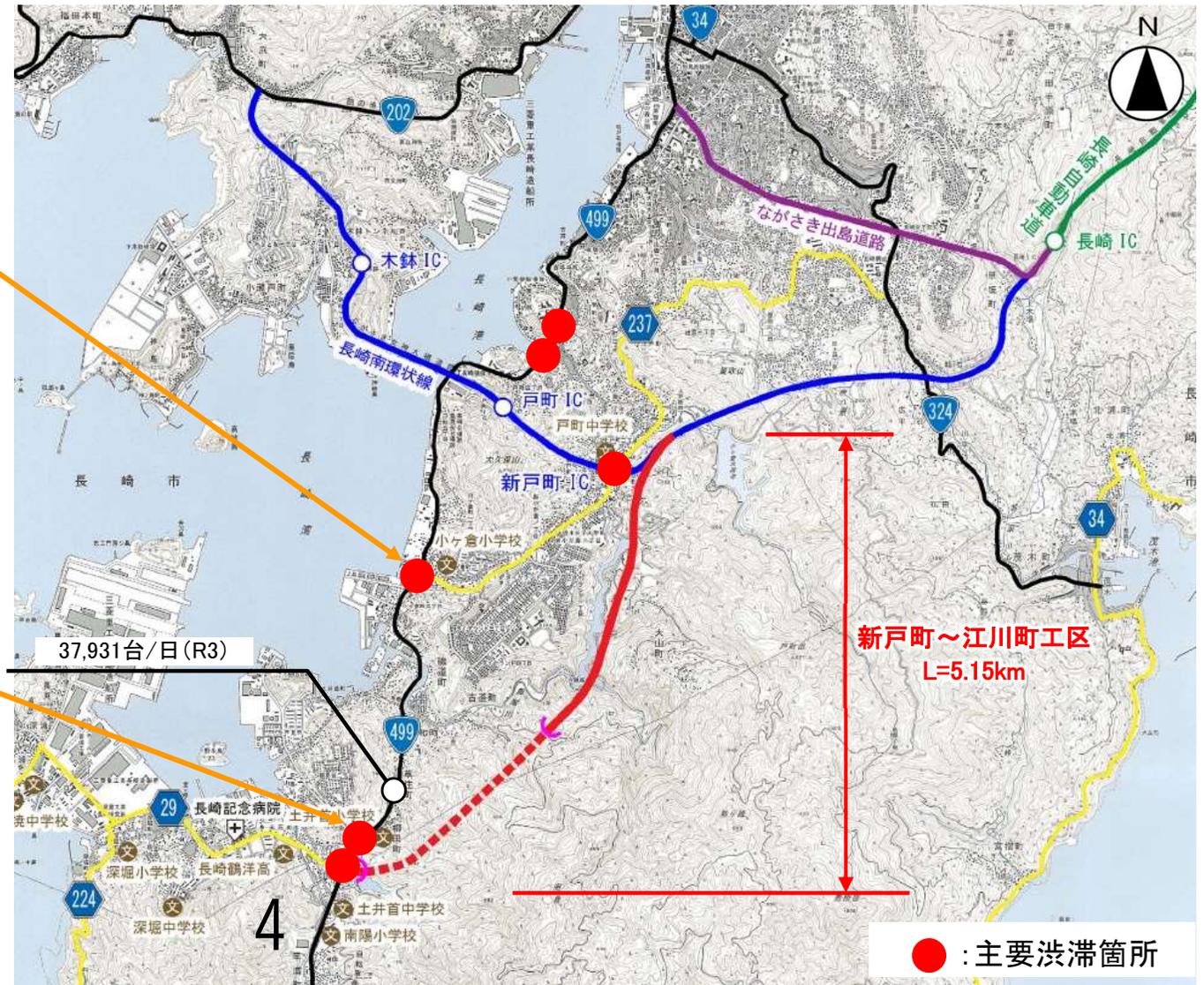
- ・長崎市南部と中心部を結ぶ国道499号は、代替路がなく交通が集中することなどから朝夕を中心として慢性的な渋滞が発生しており、通勤通学や物流などに支障をきたしている。
- ・主要地方道長崎南環状線を整備することにより、交通の分散を図り、国道499号の交通混雑を緩和する。



小ヶ倉交差点付近渋滞状況



柳田交差点付近渋滞状況



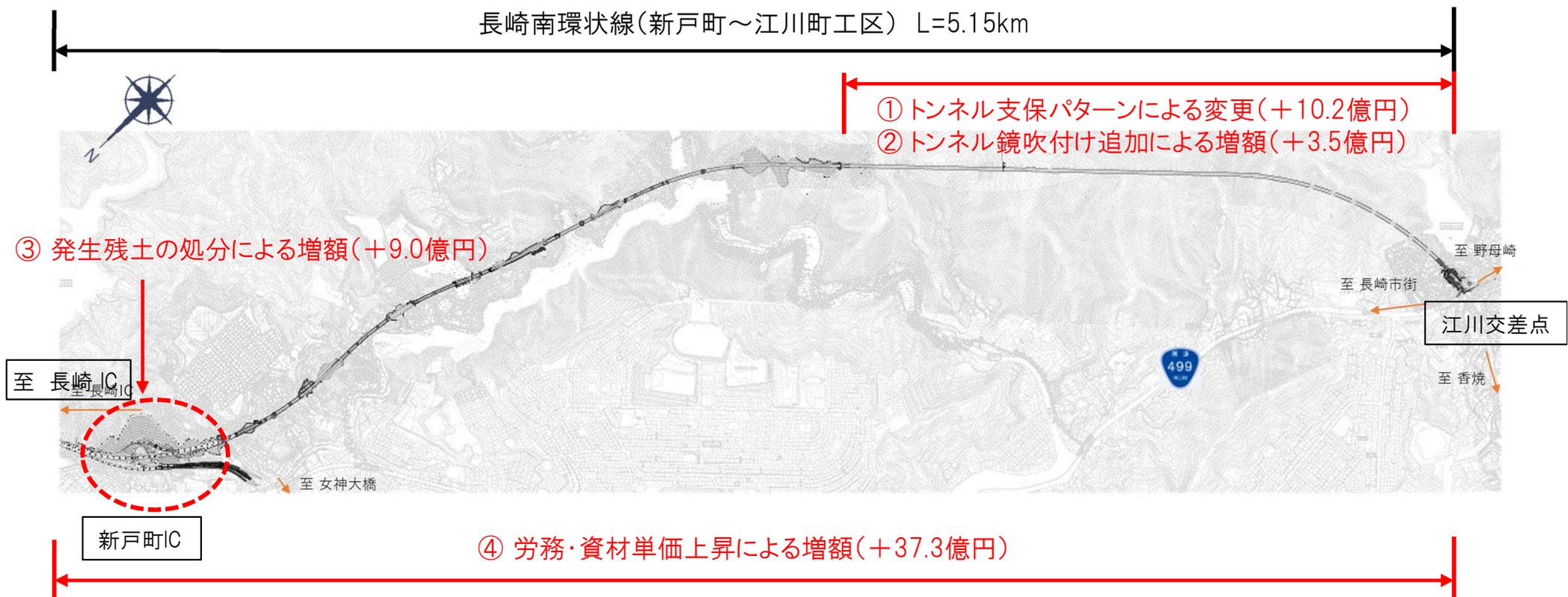
3. 事業の効果・必要性

【事業費増】

250.0億円(前回)
⇒310.0億円(今回)

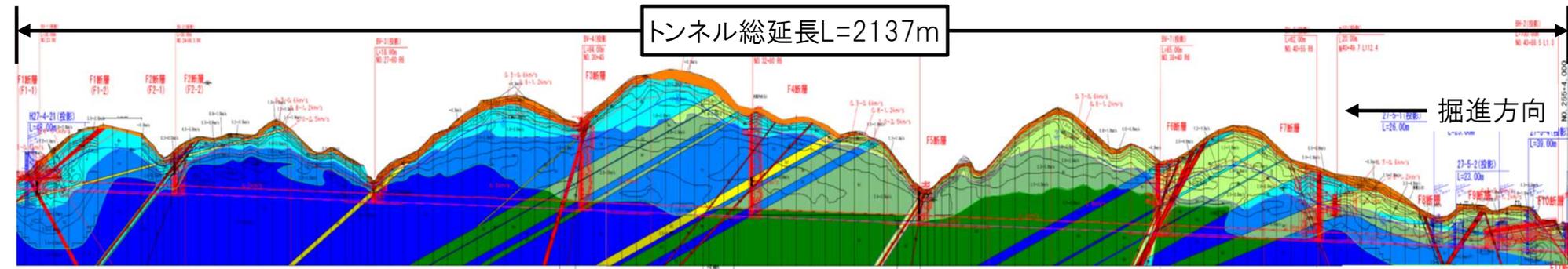
事業費増の内容	増額	主な内容
①トンネル支保パターンの変更	約10.2億円	地質調査に基づき支保パターンを計画していたが、実際の施工で脆弱な地質が出現したため、支保パターンの変更
②トンネル鏡吹付け追加	約3.5億円	支保パターンDⅠ～DⅢの区間に鏡吹付けを追加
③発生残土の処分	約9.0億円	当初計画から残土の搬出予定を変更したことによる増額
④労務資材単価の上昇	約37.3億円	労務・資材単価の上昇
計	約60.0億円	

長崎南環状線(新戸町～江川町工区) L=5.15km



4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

トンネル掘削において、当初想定よりも脆弱な地質が出現したため、支保パターンの変更及び補助工法を追加。【10.2億円の増額】

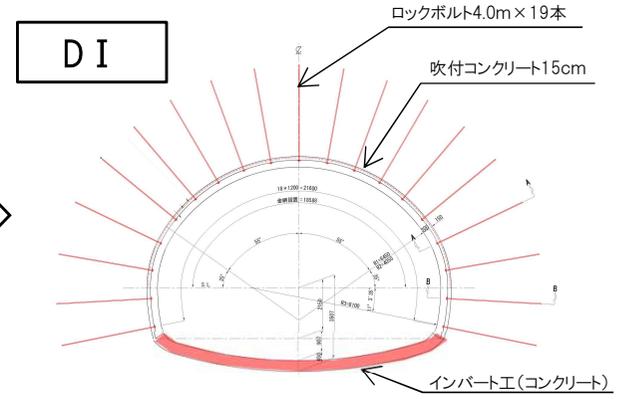
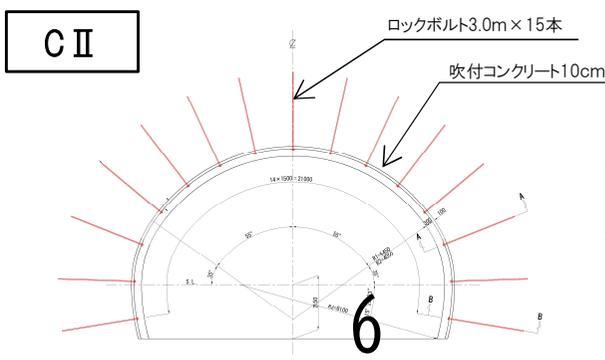


地山	支保パターン	当初(m)	変更(m)	差(m)
硬	C II	921	285	-636
	D I	915	1,625	710
	D II	199	125	-74
軟	D III	102	102	0
合計		2,137	2,137	

補助工法名	当初(m)	変更(m)	差(m)
注入式 フォアポーリング	225	215	-10
長尺鋼管 フォアパイルング(AGF)	153	261	108
合計	378	476	98

■ : 注入式フォアポーリング施工箇所 ■ : AGF施工箇所

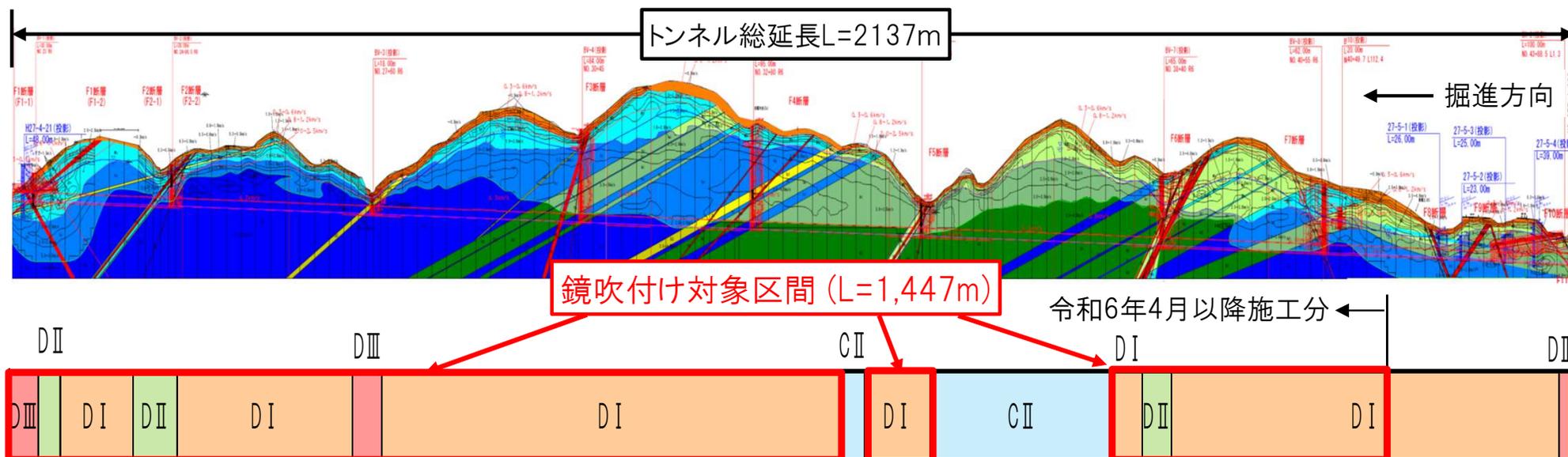
- ・ロックボルトが3m×15本⇒4m×19本に変更
- ・インバート工が追加
- ・吹付コンクリートが10cm⇒15cmに変更



変更

4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

令和6年4月に「山岳トンネル工事の切羽における肌落ち災害防止対策に係るガイドライン」が改正されたことにより、トンネル支保パターンがD I ~D IIIの区間について、鏡吹付けの追加が必要となったことによる増額。【3.5億円の増額】



鏡吹付け施工前



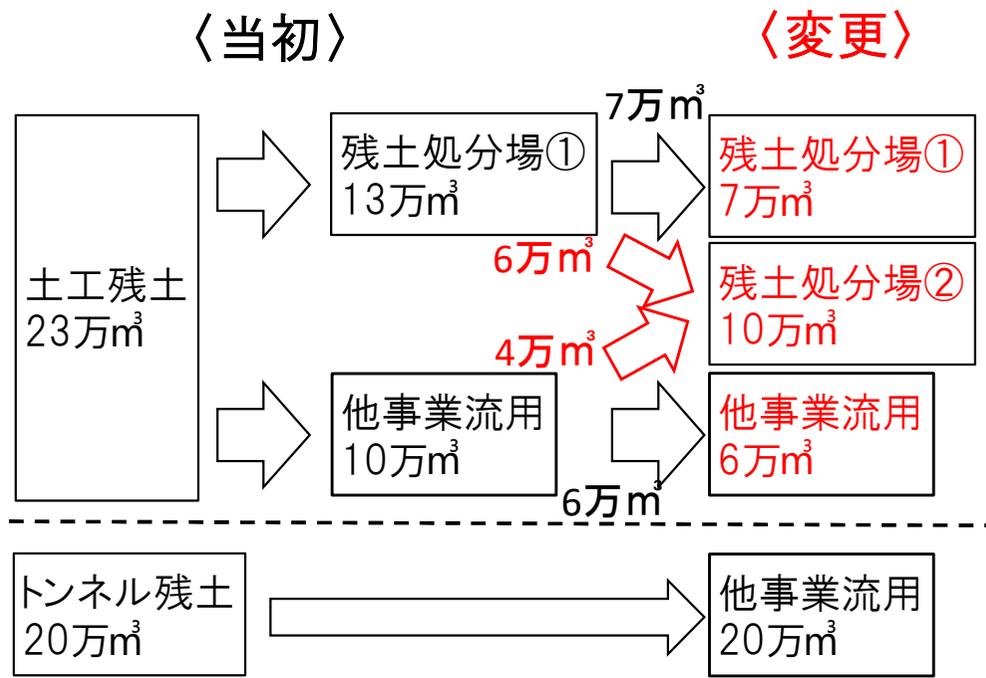
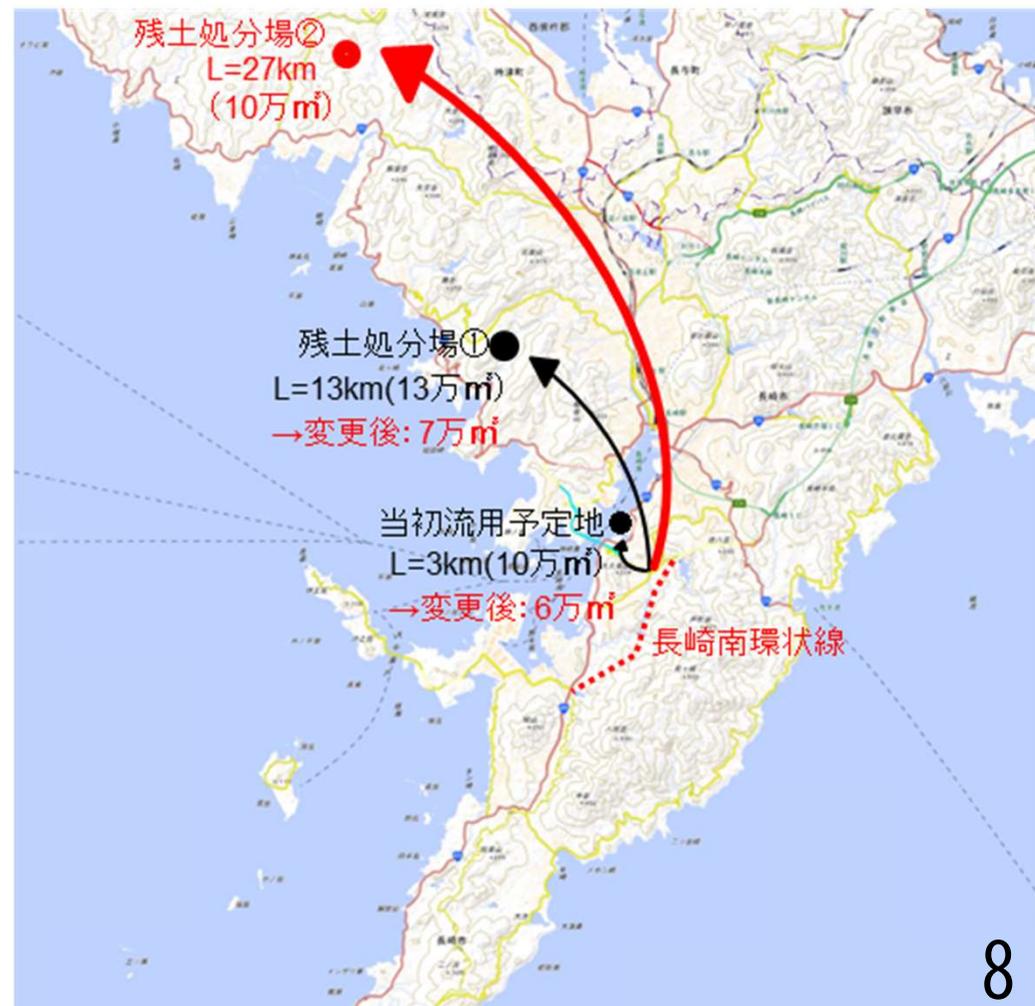
鏡吹付け施工中



鏡吹付け施工後

4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

土工掘削残土について、当初、13万m³を近傍の残土処分場へ搬出予定とし、10万m³を他事業へ流用としていたが、残土処分場の受け入れ可能量の都合と他事業の進捗の遅れにより、残土10万m³を遠方の処分場へ搬出とすることによる増額。【9.0億円の増額】

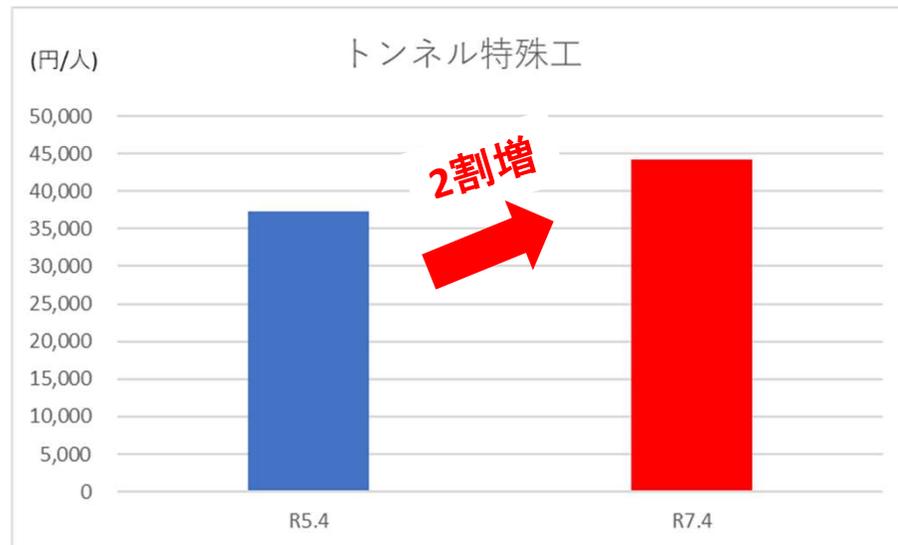


4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

前回評価(R5)後の労務費・資材単価の上昇による、事業費の増額。【37.3億円の増額】

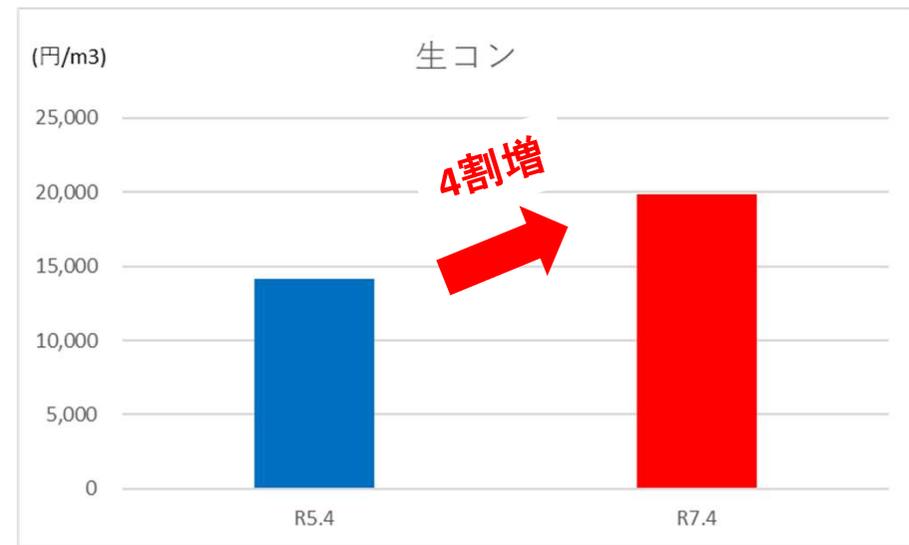
○労務単価上昇による増額

■労務単価伸び率



○建設資材単価上昇による増額

■主要建設資材単価伸び率



4. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

・用地買収困難箇所による工事期間の増

用地買収対象地権者との任意交渉において買収困難箇所があり、相続代表者との任意交渉により同意を得たが、相続人に行方不明者がいたことが判明したため、不在者財産管理人制度を活用することとした。

持分変更の交渉及び不在者財産管理人制度の手続きに時間を要することが見込まれるため、工事着手が遅れ追加で4年必要となる。

上記により、完成年度をR12からR16に変更する。

前回

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
測量	■	■	■												
地質調査	■	■													
道・橋・TN設計	■	■	■	■	■										
用地補償交渉			■	■	■	■	■	■	■						
本工事				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

今回

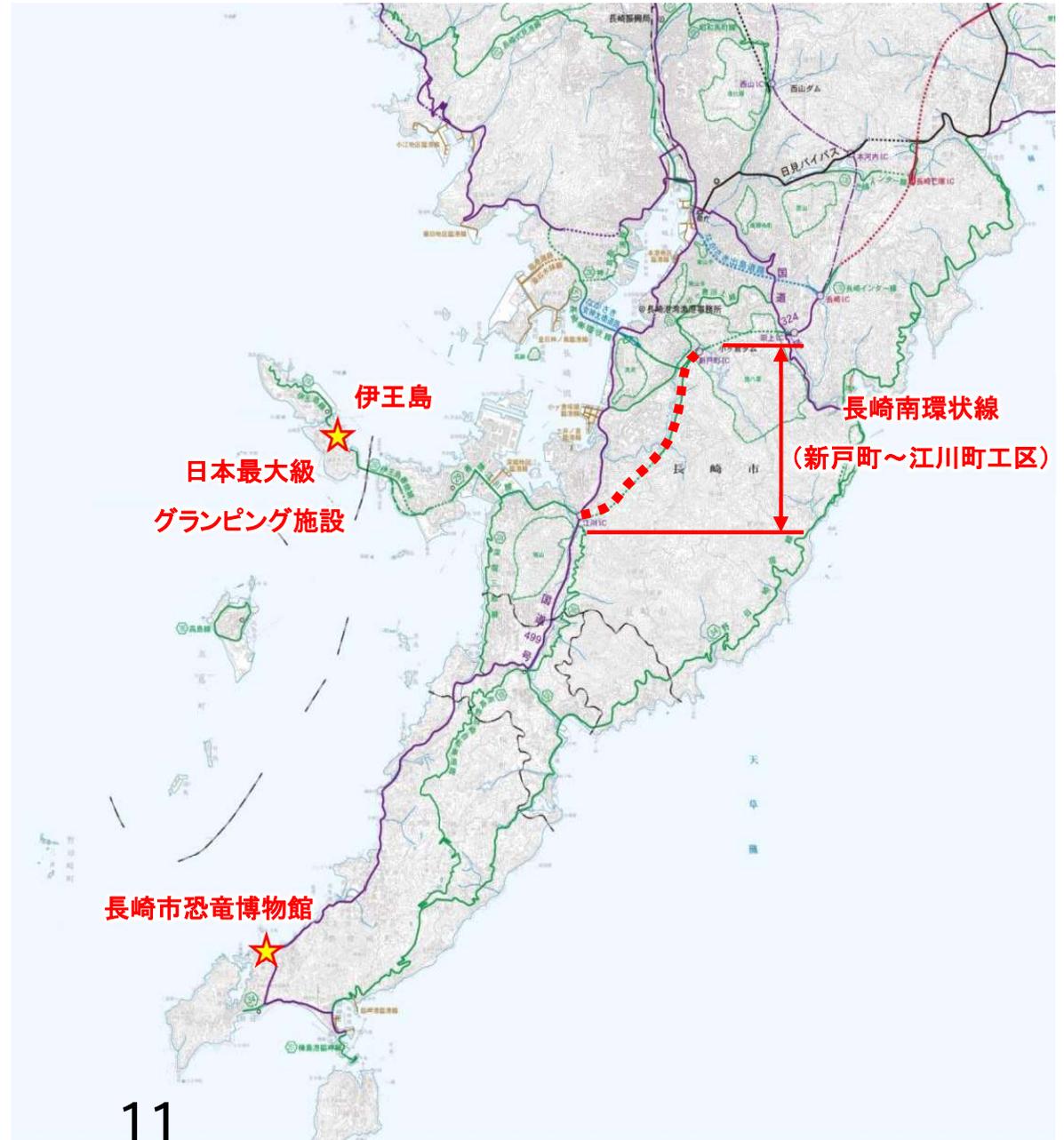
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
測量	■	■	■																
地質調査	■	■																	
道・橋・TN設計	■	■	■	■	■														
用地補償交渉			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■					
本工事				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

5. 社会経済情勢等の変化

伊王島に日本最大級グランピング施設がR8.2にオープン予定



長崎市恐竜博物館がR3.10にオープン
来場者が増加傾向:今年度は昨年度の約2倍



6. 事業の投資効果

◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (令和5年度)	今回評価 (令和7年度)
残事業	2.93 = 398.0億円 / 136.0億円	3.98 = 412.7億円 / 103.6億円
全事業	1.83 = 398.0億円 / 218.0億円	1.50 = 412.7億円 / 274.6億円

〔費用〕

- ・道路整備に要する事業費、道路維持管理に要する費用

〔便益〕

- ・走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少便益

〔プラス要因〕

- ・費用便益分析マニュアルの改定
→原単位(価格)の増加

〔マイナス要因〕

- ・事業費の増
- ・工期の延長

◆ B/Cでは計測できない効果

- ・緊急輸送道路の防災機能強化

7. 対応方針(原案)

- ◆ 主要地方道長崎南環状線(新戸町～江川町工区)は、長崎市南部の慢性的な渋滞の解消や、伊王島や長崎市恐竜博物館などへの更なる周遊観光を図ることを目的としている。
- ◆ 事業進捗率は事業費ベースで約47% [146.1億円/310.0億円]であり、用地進捗率は面積ベースで約96%となっている。(令和7年11月末現在)
- ◆ 「長崎市」から整備促進を要望されている。
- ◆ 事業費の増額、期間の延長はあるものの、費用対効果が見込まれる。

